外国出張報告書

平成 27 年 3 月 3 日

1. 出張国名　　タイ

2. 出 張 月　　平成 27 年 2 月

3. 出張目的　　家畜の集約的管理に関する意見交換：A

4. 成果の概要

本プロジェクトでは、ウシの飼養管理を粗放的な管理から集約的な管理に移行することによってメタンガス発生量を抑制できることを明らかにしてきた。
家畜管理を集約的な管理に移行した飼養では、ふん尿も集約化されるため、これまでより注意深いふん尿処理を行う必要がある。そこで、タイ畜産局家畜育種部において集約的飼養の現状について、特にふん尿管理を中心に意見交換を行なった。

日本側からは、

1）先進国、途上国における家畜飼養頭数の増加の現状および温室効果ガス（GHG）における寄与について、

2）これまでに、コンケンを中心に実施してきた乳牛飼養管理に伴うルーメンメタン発生の把握状況、飼養関係の指標との相関に関して報告を、これまでの活動として報告した後、

3）家畜排せつ物起源の温室効果ガスの測定と削減方法について、日本で得られた知見を紹介した。

タイ側からは、近年増加を続けるタイ国内の家畜飼養頭羽数を背景に、家畜排せつ物に関わる問題は顕在化しつつある。ただし、嫌気性硝化によるメタン生成と消化液利用は養豚経営ではよく見られる処理方法となりつつあるが、まだ中小経営農家の中にはため池を作ってふん尿をためている（捨てている）農家も散見されるとのことであった。

今回の訪問時の意見交換で、タイ側と家畜ふん尿処理の重要性を共有できたと考える。すでに日本とほぼ同じ規模で家畜飼養が行われているにもかかわらず、家畜排せつ物管理に関する法令整備が遅れている。

面会時に、タイ側の家畜排せつ物処理に関する主たる対応者が決められなかったが、早速選考に入り、7 月を目処に情報共有のためのワークショップ開催も提案された。